

ホームページ掲載用レジメン詳細(2021/3/8 改定)

【レジメン名】

XELOX(CAPOX)療法

【適応疾患】

結腸・直腸癌  進行・再発  術前補助  術後補助

【インターバル日数】

1コース 21日

【使用抗癌剤】

一般名/略号	投与方法	投与時間	投与日
カペシタビン/Cape 2000mg/m <sup>2</sup>	経口	2回/日	day1～day14
オキサリプラチン/L-OHP 130mg/m <sup>2</sup>	点滴静注	2時間	day1

【注射スケジュール】

薬品名	投与量	目的	手技	点滴時間	d1	d2	...	d21	d1
生理食塩液 プロイメド	100mL 150mg	吐き気止め	点滴静注	30分	↓				↓
生理食塩液 デキサート	100mL 4.95mg	吐き気止め	点滴静注	30分	↓				↓
5%ブドウ糖液 オキサリプラチン	250mL 130mg/m <sup>2</sup>	抗癌剤	点滴静注	2時間	↓				↓
生理食塩液	50mL	ルートフラッシュ	点滴静注	10分	↓				↓

【内服スケジュール】

薬品名	投与量	目的	d1	d2	d3	d4	...	d14	...	d21	d1
カペシタビン錠	2000mg/m <sup>2</sup> 1日2回 朝夕食後	抗癌剤	↓	↓	↓	↓	↓	↓			↓
グラニセトロンゼリー	2mg/回 1日1回	吐き気止め	↓								
デカドロン錠	4mg/日 1日1回 朝食後	吐き気止め		↓	↓	↓					
ピドキサル錠	30mg/日 1日3回 毎食後	手足症候群の予防	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
ベギンクリーム(尿素クリーム)	1日5回塗布 手足全体	手足症候群の予防	連日使用								
アンテベート軟膏(ペリーストロング)	1日2回塗布 体・爪周囲の症状発現部位	手足症候群の治療	症状発現時使用								

【遺伝子検査】

治療開始に必要な遺伝子検査なし

【副作用】

《主な副作用》 海外第Ⅲ相臨床試験(NO16967 試験) 神経毒性(71.4%)、悪心・嘔吐(65.9%)、下痢(56.9%)、手足症候群(22.5%)、好中球/顆粒球減少症(18%)、口内炎(13.5%)、発熱性好中球減少症(0.3%)
---

【薬学的ケア】

- 投与コース数の確認
  - ✓ 術後補助療法の総コース数は8コース(6ヶ月)になります。8コースを超えてカペシタビンが処方されている場合には病院へ疑義照会してください。
- 投与量の確認

- ✓ 腎機能障害時には以下の目安を参考にカペシタビンの減量を確認してください。  
(クレアチニン・クリアランスは血清クレアチニン値をもとに CG 式により算出)

投与開始前のクレアチニン・クリアランス		用量調節
重篤な腎障害のある患者	30mL/min 未満	投与禁忌
腎障害のある患者	30~50mL/min	75%用量(減量段階 1)で開始
	51~80mL/min	初回減量は不要

□ 手足症候群に対する対応

- ✓ 手足症候群の予防として、保湿剤(1日5回 起床時・朝昼夕食後・眠前を目安)を用いたスキンケアおよびピドキサール錠 30mg/日 3× 毎食後の連日服用を実施しています。日頃から実施できているか確認してください。
- ✓ 手足症候群の予防として、物理刺激の除去(40℃以上の熱いお湯を避ける、長時間の歩行など手足に負担がかかる行為を避ける、足に負担がかからないようクッション性の高い靴や中敷きを使用するなど)を指導・確認してください。
- ✓ 手足症候群により手足に少しでも痛みを感じた場合(手足症候群 Grade2 以上)には、直近のカペシタビン服用は自己判断で中止し、病院へ連絡するように指導してください。
- ✓ 手足症候群の症状(発赤、ヒリヒリ感など)を確認した際には、すぐに症状発現部位にアンテベート(1日2回)の塗布を開始するよう指導してください。

□ 末梢神経障害に対する対応

- ✓ 急性症状は、一過性の四肢末端、口およびその周囲のしびれ感や感覚異常であり、呼吸困難や嚥下障害を伴う咽頭喉頭感覚異常(絞扼感)などを伴うことがあります。ほぼ必発で起こります。
- ✓ 慢性症状は、知覚異常、感覚鈍磨などの手足の機能異常で、総投与量(≥オキサリプラチン累積投与量 850mg/m<sup>2</sup>)に依存して発症、増悪します。日常生活への支障が生じている場合(Grade3)には、オキサリプラチン休薬等の対応が必要になるため、以下の症状の確認をお願いします。

日常生活制限 Grade2~3 に該当する具体的な症状

服のボタンがとめにくい、ものをよく落とす、歩行や駆け足がうまくできない、つまづくことが多い、階段が上れない、文字がうまく書けない、水がとて冷たく感じる、飲み込みにくい、食べ物の味が変わった

- ✓ 手足、口腔内のしびれは寒冷刺激で誘発されるため、冷たいものにできるだけ触れない、冷たい飲食物をできるだけ摂取しない、洗面や手洗いは温水を使用する、炊事や洗濯時は厚めの手袋を着用する、エアコンなどの冷気には直接当たらない、寒い場所や部屋はさけるよう指導してください。

□ 血管痛に対する対応

- ✓ オキサリプラチンは末梢血管からの投与により血管痛・血管炎を起こしやすい薬剤です。点滴部位に腫脹や発赤がある場合は、刺入部位を保温することで、軽減されることがあります。

□ 過敏症の確認

- ✓ オキサリプラチン投与中や投与後に現れることがあります。プラチナ系の抗がん剤は、初回のみでなく7~8コース後に起こる場合が多いため、息苦しさ、かゆみ、皮疹、発赤などの症状を確認し、症状があれば病院に連絡してください。

□ 併用薬の確認

- ✓ **併用禁忌:カペシタビン+ティーエスワン**  
→ティーエスワンが併用されていないこと、および投与中止後の適切な間隔(最低7日間)があいていることを確認してください。
- ✓ **併用注意:カペシタビン+ワーファリン**  
→血液凝固能検査値異常、出血の発現が報告されているため、カペシタビン開始時には血液凝固能検査を確認してください。当院では、可能な限りワーファリン→DOACへ変更で対応しています。